

# 海況速報

平成6年度 第4号 (通算 №40)  
平成6年10月28日  
北海道立水産試験場

☆電話番号の変更のお知らせ☆

海洋部の電話番号が直通になりました。  
内容についての問い合わせは

中央水試海洋部 0135-23-4020

## 10月上旬～10月中旬の海況

### 【日本海海域】

表面水温について見ると、前回（8月）は累年平均(\*1)よりも1～2.5℃高い海域が多くなっていましたが、今回は、荒天のため欠測となった道南を除いて、累年平均よりも2℃以上低い海域が現れました。北緯42度30分では+2～+3℃、北緯43度30分では+3～+3.5℃と道央海域では全域で前回並からそれ以上になっています。北緯44度30分では沿岸側で0～1.5℃高く、沖合側で0～3℃低く、北緯45度30分では、沿岸側で-0.5～+1.5℃高く、沖合側で2～2.5℃低くなっていて、道北海域では累年平均より沿岸側で高く、沖合側で低い状況となっています。

50m層以深の水温は、前回、累年平均よりも低い海域が多く、道南から道北までの全域の沿岸側で水温が低いところに特徴がありました。しかし、今回は沖合側で低く、沿岸側で高いという状況に変わりました。道北では沖合に行くほど低くなる状況で、特に50m層では、北緯44度30分、北緯45度30分ともに一番沖合側で累年平均よりも6℃低くなっていて、過去5年間で最低の水温となっています。沖合側のこのような状況に対して沿岸側では、全層・全域で累年平均並かより高いところが多くなっていて、南側ほどこの傾向が強いです。

前回、道央海域沖合にあった暖水渦は今回観測されませんでした(\*2)。道央以北の海域では対馬暖流の幅（たとえば100m層で5℃）が前回同様沖合に広がっていますが、岩内湾以西海域では逆に前回より沿岸側に狭まっています。

余市における沿岸水温（旬平均）は、平年値に比べ4月から7月まで、6月中旬の+2.4℃を除き、-0.7～+0.6℃の範囲内で推移していましたが、7月下旬以降+1.5℃前後で、8月下旬から+1.6～+2.8℃で推移しています。

### 【道東太平洋海域】

降温期に入って道東沖の表面水温は前回（8月）よりも下がったところが多いのですが、道東沿岸を流れる道東沿岸流の流域（たとえば50m層で見ると水温8℃以上）では逆に昇温しました。そのため、前回の、沿岸側で低水温・沖合側で高水温の傾向から、沿岸側で高水温・沖合側で低水温の傾向に変わりました。ただし、全体的な水温差は小さくなっています。また、前回沿岸寄りに形成されていた暖水域（厚さ200m以上）はすでになくなっています。しかし、釧路南東方はるか沖合の北緯41度、東経145度30分に、厚さ100m以上の暖水が流入しています。

表面水温は、2～3の例外を除き(\*3)、1～3℃累年平均より高くなっています。50m層以深では、北緯41度、東経145度30分の暖水の東側で1.5～4℃低いほかは累年平均と比べて特に大きな特徴は見られず、平均的な海況となっています。

## 【道南太平洋海域】

今回は、浦河南西方観測線は荒天のため欠測となったので、白老南方観測線だけの実況となります。

表面水温は、前回（8月）噴火湾湾口東方域で3.5～4℃累年平均より高く、津軽海峡東口で累年平均並となっていました。今回は津軽海峡東口の最高水温帯（累年平均に比べて3.5℃高い）を除けば+1～+2℃の範囲になりました。

50m層以深の水温を見ると、前回、道南海域の北側海域では累年平均より高く、南側海域では逆に低くなっていましたが、今回はすべて累年平均より高く（+0.5～+3.5℃）、特に、200m層と室蘭東方沿岸部で高いことが特徴となっています。

## 【オホーツク海海域】

前回（8月）、本道オホーツク海沿岸の沖合の表面に形成されていた冷水帯の構造はほとんどなくなり、水温は沿岸側で高く、沖合側で低いという海況に移行しています。

表面水温は、前回、全海域で累年平均に比べて-4～+5℃という大きな範囲にありましたが、今回は-1～+2℃の範囲に入っています。

50m層以深の水温を宗谷暖流域の最高水温帯で見ると、50m層では北西側で累年平均に比べて最大3℃高くなっていますが、南東側の網走沖では逆に2℃低くなっています。100m層でも北西側で3.5～5℃高くなっていますが、南東側の知床岬の付け根付近では4.5℃も低くなっています。南東部における低水温の原因は、前回宗谷暖流域に見られた日本海海域の低水温の影響が残っている可能性もありますが、むしろそこで宗谷暖流の幅が狭くなって沖合側の冷水が沿岸側に張り出してきているためのようです。

---

### 資 料 [観測期間]

青森水試（東奥丸）	平成6年10月7日～同10月8日（東北日本海海域）
稚内水試（北洋丸）	平成6年10月11日～同10月12日（道北日本海海域）
稚内・網走水試（北洋丸）	平成6年10月3日～同10月5日（オホーツク海海域）
釧路水試（北辰丸）	平成6年10月2日～同10月5日（道東太平洋海域）
函館水試（金星丸）	平成6年10月6日～同10月6日（道南太平洋海域）
中央水試（おやしお丸）	平成6年10月3日～同10月5日（道央日本海海域）

---

\*1: 平成元(1989)年～平成5(1993)年までの平均値を使用しました。

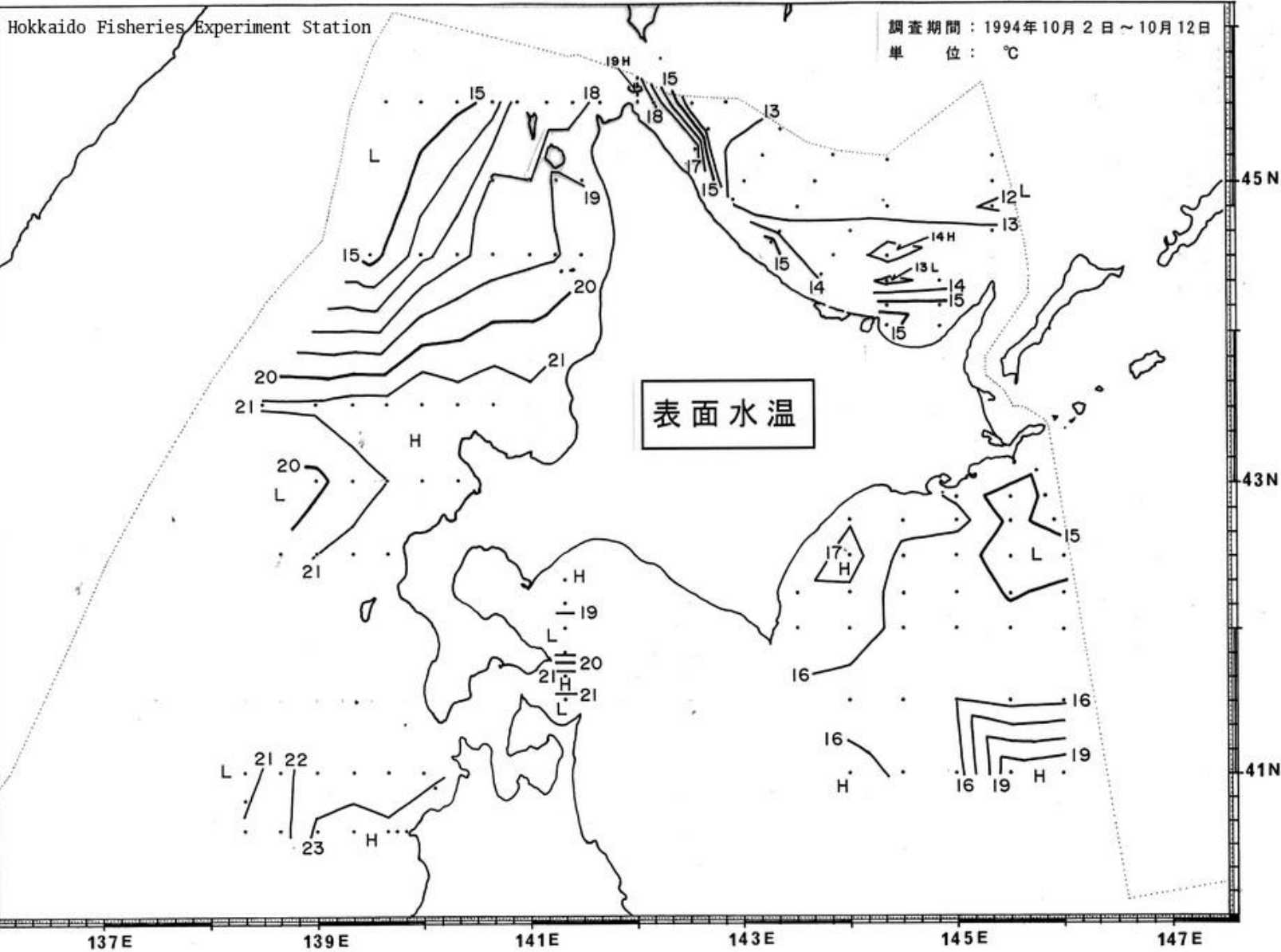
\*2: 気象衛星NOAAの表面水温情報には、今回観測できなかった北緯44度の補助観測線の沖側に暖水渦らしき構造が見えます。また、この補助観測線に沿って沖合やや北側から東経141度以東にかけて沖合の冷水が帯状に入っているようです。北緯43度30分から北緯44度30分の間の海洋観測を試験調査船で行えなかったため、したがって、このような重要な情報が今回の海況図には描かれていません。同様なことが道南太平洋海域でもあって、気象衛星NOAAの表面水温情報から、前回に引き続き津軽暖流は渦モードになっていることがわかっています。

\*3: 北緯41度、東経145度30分の暖水の周辺では累年平均水温に対して-0.5～+0.8℃となっています。

Hokkaido Fisheries Experiment Station

調査期間：1994年10月2日～10月12日  
単位：℃

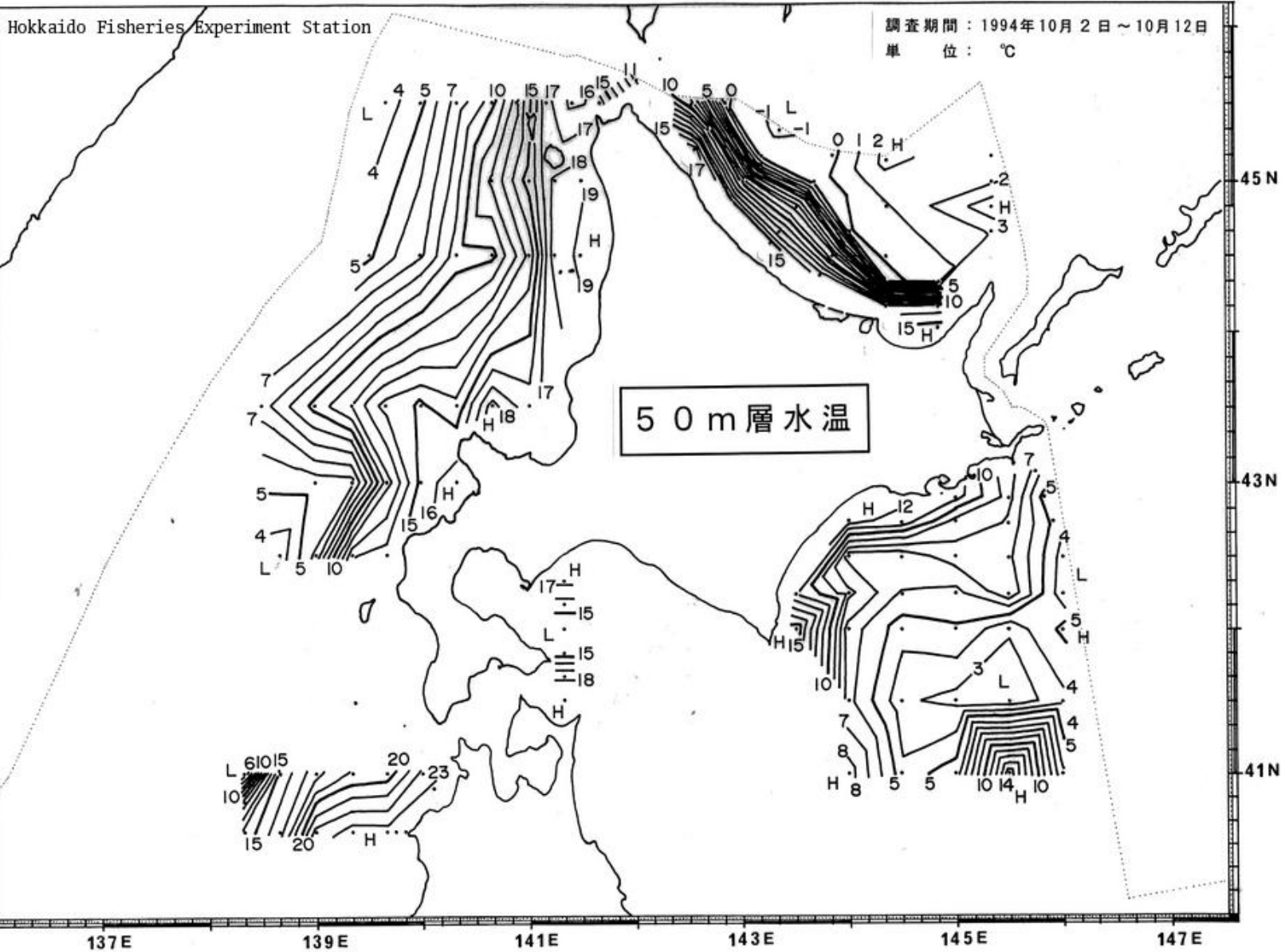
表面水温



Hokkaido Fisheries Experiment Station

調査期間：1994年10月2日～10月12日  
単位：℃

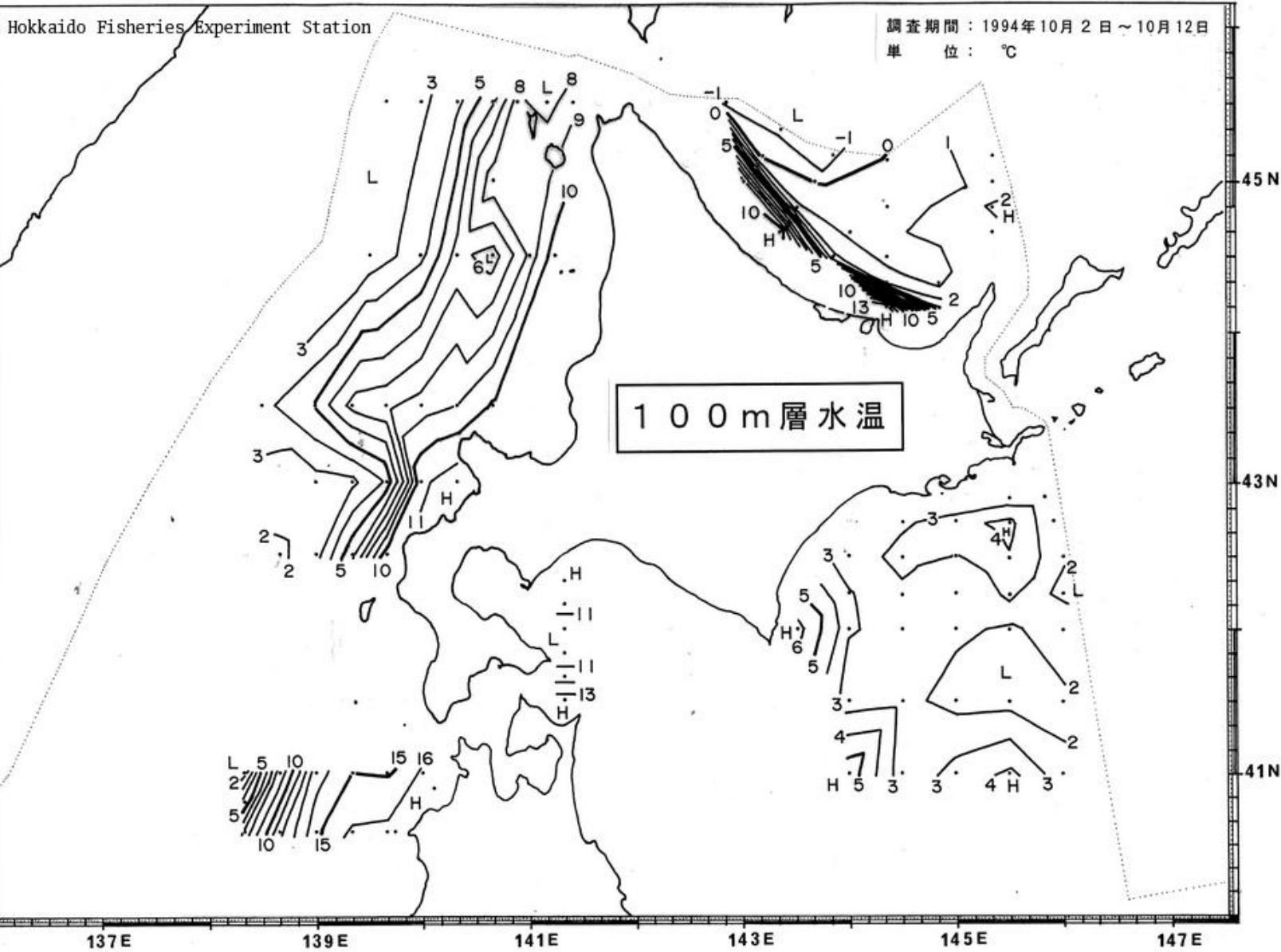
50m層水温



Hokkaido Fisheries Experiment Station

調査期間：1994年10月2日～10月12日  
単位：℃

100m層水温



200m層水温

